

学校づくりシンポジウムを開催

11月16日(日)に山ノ内町文化センターにて「学校づくりシンポジウム～2030やまのうち義務教育学校への挑戦～」を開催しました。「新しい学校」を共通のテーマに、未来の教育について考える未来志向の前向きなシンポジウムとなりました。

◆シンポジウム開催の趣旨◆

新しい学校を「町民みんなで創る」という気運と当事者意識を高めることを目指します。
変化の激しい時代において、こどもたちに求められる力や、学校のあり方も大きく変化しています。これまでの教育観にとらわれず、多様な事例や社会の変化を共有することで、参加者一人ひとりがこれからの教育の可能性を考え、新たな価値観を育む機会とします。

第1部 座談会

これからの中学校はどこに向かうのか。「学校」の存在意義は何なのか…
講師による話から、参加者がそれぞれの「学校観」をとらえ直す。

第2部

パネルディスカッション

学校にかかわる様々な立場の方が、山ノ内だからできることや、これからチャレンジしたいことなどを語ります。

第3部 意見交換

シンポジウムで得たもの、これからも考えたいこと、今後の楽しみ、不安…互いにアウトプットし感想をシェアします。

第1部 座談会 未来の学校を語る

講師 猿渡 智衛さん(文部科学省 CSマイスター)

- ・福島での被災地復興の経験で、ITが使えなくなった際、「隣の人と助け合う」というリアルな体験をした。人とのつながりは必要。未来の学校は最新鋭の設備もありながら、人とつながるリアルな体験は重要でコアなものとして残したい。
- ・学校は、「学ぶ」だけでなく、いろんな人が「会う」、「楽しむ」場所であり、様々な機能が合わさった複合的な施設となることで町のシンボルとなる。

講師 伏木久始さん(信州大学学術研究院教育学系教授)

- ・地域のみんなでこどもを育てるという環境をつくり、こどもに良い原風景をつくってあげてほしい。
- ・昔を懐かしむのではなく、「未来を生きるこどもたち」のことを責任をもって考え、未来の学校について一緒に議論することが大事である。既存の概念を打ち破り、「こどもも大人もみんなが学校に行きたいと思うような」学校を思い描きましょう。

講師 伴 美佐子さん(長野県 CSアドバイザー)

- ・未来の学校像として「学校の中に街をつくる」。学校は未来になんでも無くならないものであり、デイサービス、町立図書館などを併設し、「みんなが集える場所」となればよいと思う。
- ・最も心に残る音楽というのが10代から20代前半頃にエピソードと結びついた曲であるという研究がある。小中学生の間が大事だと考えている。

第2部 パネルディスカッション 山ノ内だからできる これからの学校への期待



Q 中学生の2人に、今通っている学校で「新しい学校でも引き続きしてほしいこと」「大事にしてほしい学校の雰囲気」などがあれば聞きたい。
・小学校で取り組んでいた ESD 活動を、学年が上がっても続けたい。
・小学校から中学校に上がると ESD の取り組みが一旦「終わってしまう」が、新しい学校は9年間続くため、ESD の活動をもっと活発に大きく活動していくようにしてほしい。

中学生が述べた思い

- ・将来の夢といわれても、仕事の中身がわからず、はっきり言えない。学校に色々な職業の人が来て仕事を話を聞かせてほしい。
- ・先生や親に相談できない悩みを話せるよう、高校生など年齢が近い人が定期的に学校に来てくれると嬉しい。

大人の姿を見せる

- ・大人が「10年生※」になって学校の中で学ぶ場を作り、こどもたちに大人が生涯学んでいる姿を見せられたらよい。

※10年生:学校を活用して学ぶ大人たち

◆学校生活における「給食」が話題になりました◆

- ・学校の魅力の一つは給食。美味しくバラエティーに富み、特に山ノ内の給食は野菜が豊富である。こどもの健康づくりのため、山ノ内ならではの学校給食をこれからも大事にしてほしい。
- ・給食を教室だけではなく、いろんな場所で食べられるようにし、食べやすい所で食べたらもっと楽しい時間になると思う。

◆多くの視点から「新しい学校」「山ノ内町の学校」の未来が語られました◆

- ・地域のさんは、批判・評価する人ではなく、「一緒に汗を流す人」になってもらえると信じている。
- ・全てのこどもが「学ぶことが楽しい、学んでいる自分が好きだから学校に行く」ことを目指していきたい。
- ・こどもたちには、自分が育ったところの良いところを十分に感じながら育ってほしい。
- ・こどもたちが自己有用感を得るために、意見表明、自己選択、自己決定を経て自己実現できるプロセスが大切にしたい。



・学校づくりは地域づくり・まちづくりであり、地域の人々が責任を持ってこどもを育てるという意識改革が必要だと思う。
・実際にこどもと話して、大人とこどもの直接の対話は非常に大事で、今後も継続的な機会の設置が必要だと思った。

★参加者の感想より★

- ・これから学校について、たくさん学べました。どのような学校にしたいのか自分でも考えられたし、もっと学んで良い山ノ内にしていきたいです。学校がシンボルの山ノ内町になったら楽しいし、ワクワクします。
- ・中学生が自分のこと、周りのことを考えて学校づくりに関わろうとしていて感動しました。周りに素敵な大人がいることもいいですね。自分の地区でもそんな大人と子どものつながる機会を作れたらいいなと思います。
- ・この議論を結実させて山ノ内モデルの学校を発信していくと、全国で課題になっている過疎地域、中山間地域の地域づくりのあり方に一石を投じることができるのでないかと思います。